

軽井沢町において確認された長野県新産国外外来種 オオカナダオトギリ *Hypericum majus* (A.Gray) Britton

大森 威宏*・藤田 淳一**

1 はじめに

オオカナダオトギリ *Hypericum majus* (A.Gray) Britton は、日本では 1963 年に北海道鶴川町で初めて記録された北米原産の国外外来種である（伊藤 1965）。その後本州でも新潟、神奈川、千葉の各県から記録されるようになった（勝山 2018、石沢・朱 2006、土屋 2021）。2023 年 9 月、長野県北佐久郡軽井沢町において本種の生育を確認したが、長野県では新産であると考えられるため、ここに報告する。

2 生育環境

オオカナダオトギリの生育を確認したのは、軽井沢町大字発地に存在する八風湖であり、八風湖からは、発地川が流出している（図 1）。八風湖の湖岸は、コンクリート等による護岸整備はされておらず、

過湿な粘土質の緩傾斜地であり、ヒロハノドジョウツナギ *Glyceria leptolepis* Ohwi、アカバナ *Epilobium pyrricholophum* Franch. et Sav.、オオイヌタデ *Persicaria lapathifolia* (L.) Delarbre var. *lapathifolia*、エゾシロネ *Lycopus uniflorus* Michx. 等の湿生植物が群生していた。

これらの湿生植物にオオカナダオトギリ 30 個体ほどが混生していた。確認時には、開花、結実していた。

3 形態的・生態的特徴

茎は直立し、上部で分枝する。雄蕊は合着せず離生し、葉は披針形で、明点（神奈川県植物誌では透明点とされる）が葉に多い一方で、黒点は全草に渡り存在しない。国内に自生する同属種で雄蕊が離生し、葉や萼、花弁に明点ばかりが存在して黒点のない種は、ヒメオトギリ *Hypericum japonicum* Thunb.、

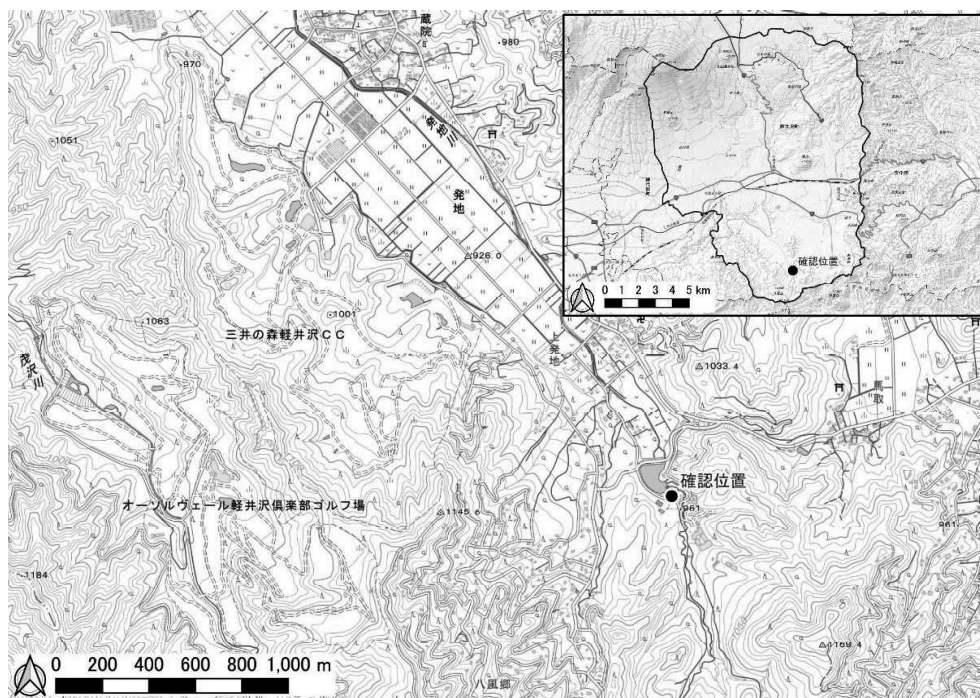


図 1 確認位置図（右上は軽井沢町広域図）

* 群馬県立自然史博物館 〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 Mail: ohmori@gmnh.pref.gunma.jp

** 藤田淳一 長野県松本市

コケオトギリ *H. laxum* (Blume) Koidz. が挙げられる。これらの種は、植物体の基部からよく分枝し、葉形が卵形、広卵形である点から、茎は基部では分枝せず、葉が披針形で大きいオオカナダオトギリとは容易に識別できる。

原産地の1つであるカナダの Flora of British Columbia によれば、オオカナダオトギリは、多年生、若しくは、生育状況により一年生草本であるとされる。また、低湿地帯、湿った荒れ地、春先に生じる水たまり、砂礫質の海岸沿いに自生するという。八風湖で採集された標本には、古い茎が基部についたものもあり（図2の右から2本目）、少なくとも一部は多年草として生育していると考えられる。

4 証拠標本

長野県：北佐久郡軽井沢町発地 八風湖、2023年9月3日：大森威宏・藤田淳一・今城治子 17666: (GMNHJ-BS105313*).

* GMNHJ：群馬県立自然史博物館

5 参考文献

- E-Flora BC, Electronic Atlas of The Flora of British Columbia (<https://linnet.geog.ubc.ca/Atlas/Atlas.aspx?sciname=Hypericum%20majus> (2023年9月5日閲覧)).
- 石沢 進・朱 雁 (2006) 新潟県植物分布資料 (6). 新津植物資料室年報 2006, 7-10.
- 伊藤浩司 (1965) 帰化植物おぼえがき. 植物研究雑誌, 40: 219.
- 勝山輝男 (2018) オトギリソウ科. 958-966pp. 神奈川県植物誌, 神奈川県植物誌調査会, 神奈川.
- 土屋 守 (2021) 野田市にてオオカナダオトギリとアメリカクサイを採取する. 千葉県生物誌, 71: 85-86.
- 米倉浩司・梶田忠 (2003-) 「BG Plants 和名－学名インデックス」 (2024年1月28日閲覧).



図2 証拠標本